

■「惣大行事日記（文久三年）」より「鹿島丹下の帰職運動」

1. 文久三年四月 上郷・下郷の旧家臣へ挨拶回り

（四月）九日 雨 夕方^方天気 権太夫来

筒井村重左衛門来。旧冬^臣廻り^ニ同人出呉候對談^之処、当節地頭用向^{ニ而}出拔兼候趣断。猶又種々相談有之候。下郷、幡木・筒井・平泉・賀村四ヶ村^{へ者}重左衛門廻り呉候筈^{ニ而}、血葉二十帖持参^ス。外^ニ旧臘御免^之御沙汰^之節、土産調置候得共、職分願相濟候上、一統^へ可及音信^ト存、是迄延引いたし居候得共、旧臣廻り^ニ付^{而者}無音^ニいたし置候も如何^ト存、右土産物遣候。幡木平左衛門・筒井十左衛門^{両人者}別段骨折も有之候故、箱入三ツ組巴紋盃、但瀬戸物也、是^ヲ遣し申候。其外^{へ者}瀬戸巴紋壺^ツ盃箱入也。尤分家等^{ニ而}別段骨折も無^之處^者、右土産遣し不申、無據處^へ斗也。右四ヶ村分、都合箱十六遣^ス。

（中略）

十三日 晴 薄暑

息栖御祭礼^ニ付神酒献。今日上郷先方廻り^ニ、能右衛門差出候^ニ付、同人義も耳遠^ク咄も分り兼候故、鸛屋半平^ヲ相頼候処、一同^{ニ而}出呉候。尤半平帯刀^{ニ而}能右衛門^者一刀也。人足^ニ両掛為持、土産もの配り旁也。夜^ニ入人足斗罷帰。能右衛門^者棚木村仁兵衛方へ泊り、鸛^{や者}罷帰候得共、草臥候^ニ付、此方迄^者不参由。明日又候鸛や出呉候由申越候。人足^ニ夜食為給。

(中略)

十四日 晴 薄暑

(中略)

一、上郷先方廻り、今日も半平・能右衛門兩人出候。人足夜ニ入帰ル。昨日^者中飯給候處無之大ニ困り、漸居合へ参り、宿屋^{ニ而}支度いたし候由。今日^者羈屋方^{ニ而}弁当^ニすし沢山持参いたし、併立原九郎右衛門方^{ニ而}中飯被差出候由、人足^之もの咄也。兩人^者今晚も内々へ直^ニ罷帰り、此方へ^者不参候。

(中略)

十五日 晴 薄暑 昼時雨少降

(中略)

一、今朝能右衛門来。今日下郷へ出候筈、羈斎相談^之由。血薬・土産物等改遣^ス。昼後人足帰ル。雨降出候^ニ付、八方村^{より}罷帰候由也。

(中略)

一、羈斎来。今日下郷へ^者能右衛門斗差遣候由。一昨日・昨日相廻り候先方軒別^之書付委細認、致持参候。